

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	570507806
法人名	伊藤建友株式会社
事業所名	グループホーム本荘やすらぎ苑
所在地	秋田県由利本荘市石脇字山ノ神11-383 (電話) 0184-25-8230
評価機関名	秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田市東通三丁目9-31
訪問調査日	平成20年11月18日

【情報提供票より】(平成20年11月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	4.9

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺き 造り
	2階建ての ~1、2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,913 円	その他の経費(月額)	4,500円(11月~3月9,500円)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性 4名	女性 5名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	5名	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 76歳	最低 56歳	最高 87歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本荘第一病院、五味デンタルクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中心街より程近い住宅地の中に、民家を改築して始められたというホームには広い苑庭があり、畑や花壇などが作られ、入居者は自由に外に出て過ごしています。また散歩も日課となっており、近隣者と挨拶を交わすなど自然に地域にとけ込んで生活をしています。また、消防署の協力の下、隣近所にも声をかけ、夜間想定避難訓練も行われ、町内連絡網も作成され、災害に備えています。ホーム内は『我が家』のような落ち着いた雰囲気の中で、職員も入居者と一緒に食事をし、片付けたり洗濯物を干したりと自然に振る舞い、縁側では楽しく会話をしながら職員による散髪が行われるなど明るい笑顔と笑い声が溢れています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者および管理者は評価の意義を理解しており、今回職員は新・旧用紙でそれぞれに自己評価を実施し、それを管理者はホームとしてまとめ、運営者からも確認いただいております。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、ホームの状況報告や意見交換などが行われています。また勉強会なども行い認知症の理解を深められています。さらに、地域包括支援センターなどにも会議への参加を呼びかけ、市町村職員とも連携を図りながら、サービス向上につながる取り組みをされることを期待します。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月担当がお手紙にて生活状況を報告したり、3ヶ月毎にやすらぎ苑便りを発行し入居者の生活状況や活動状況を報告しています。また、玄関には目安箱を設置し意見を聴ける体制づくりをしている他、外部の窓口も積極的に紹介しています。寄せられた意見・苦情などは話し合いをし、運営に反映させています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入会しており、色々な行事の案内があります。会議には管理者が出席し、認知症の啓蒙も行っております。町内のお祭りには苑庭で、山車・子供たちの踊りなどが披露され、ジュースを振る舞うなど交流が図られています。ボランティアの受け入れも積極的に行われています。散歩は入居者の日課となり、近隣者と挨拶を交わしたり常日頃の交流が図られています。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆったり・楽しく・自由に・安心して住める社会づくりを理念とし、入居者が自宅で生活するように、職員は人と人との付き合いを大切にしながら代理家族として家族と同じように関わっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は玄関と事務室に掲げられ、毎日のミーティング時に唱和する他、運営者も参加する月1回の会議でも確認され共有が図られています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会しており、ボーリングやゲートボール大会など行事の案内があります。会議には管理者が出席し、認知症の啓蒙も行っております。町内のお祭りには苑庭で、山車・子供達の踊りなどが披露され、ジュースを振る舞うなど交流が図られています。ボランティアの受け入れも積極的に行っています。また散歩は入居者の日課であり、近隣者とあいさつを交わしたり、花や苗・球根を頂くなど常日頃の交流が図られています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員はそれぞれに自己評価を実施し、それを管理者はホームとしてまとめ、運営者からも確認いただいています。自己評価や外部評価を活かし、改善にも積極的に取り組んでいます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の日程調整がつかず、間が空く時もありますが、2カ月毎の開催を基本とし状況報告や意見交換などが行われています。また、勉強会なども行い、認知症の理解を深めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月開催される「地域ケア会議」に出席し、行政並びに介護保険事業所からの情報を取り入れながら、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当者が家族宛のお手紙を発送し、入居者のホーム内での生活状況を報告しています。また、3カ月毎にやすらぎ苑便りを発行しています。金銭管理に関しては、出納帳に記入し、毎月の家族面会時に領収証やレシートを手渡したり出納帳を確認していただきサインをいただいています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置し、訪問された方の意見などを聴ける体制作りをしている他、市町村や支援センター、福祉相談センターなど外部の窓口も積極的に紹介しています。寄せられた意見・苦情などはマニュアルを基に話し合いをし、運営に反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独事業所である為、職員の異動はありません。都合により退職する職員の場合も引き継ぎとしては行わず、入居者の混乱を招くことがないように三交代の流れの中で自然に行われています。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修計画を立て、職員が順次研修を受けられるよう配慮されております。また、自己学習、自己啓発に向け事務所内に書籍も準備されるなど、職員の知識向上に取り組まれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本荘市内12カ所のホームが集まり協議会を設立され、管理者の交流が図られています。また、他の事業所の職員がホームを訪れ、交流されています。	○	交流活動を通じてサービスの質の向上の為、更にレベルアップされることを期待します
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居決定の前に見学していただいたり、場合によっては体験入居生活をしていただき、家族だけでなく本人が納得した上で入居契約を結ぶよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も入居者も会話をしながら一緒に片付けたり洗濯物を干したりと自然に振る舞っています。縁側では職員による散髪が行われ、入居者からは明るい笑顔と笑い声がみられました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に一人ひとりを把握するため、アセスメント用紙を活用していますが、本人の基本的な情報や暮らし方の希望、意向などの把握には至っていません。	○	アセスメント用紙の工夫により入居者一人ひとりの生活歴や趣味・生きがいなどを把握し、入居者の希望に添った計画やケアに取り組まれることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の希望を聴きながら職員とも話し合い、介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、基本的には3～6カ月間としていますが、ミーティングにおいて1カ月毎に評価・見直しを行い、必要時は新たな計画を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の援助や外出支援、外泊支援など必要に応じて対応しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続的に受診できるように支援されています。また、入居者や家族の希望によっては近医の往診も可能です。相談できる薬剤師の確保もできています。さらに、家族が来苑時等を利用して受診結果を報告されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的には終末期の受け入れや対応はしない方針にしているため、入居時に家族に説明し納得された上で、介護保険施設などへの申し込みをいただいています。病状悪化の場合は入院のための病院との契約もできています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重要事項説明書に明記され契約時に説明・同意を得ています。また、玄関に掲示されています。介護記録は事務室に保管され、背表紙にはアルファベットを用いるなど、目につかない工夫をされ、取扱いには注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パートも含め9人の職員が配置されておりますが、マンパワーの不足により入居者の希望に添った支援が難しいのが現状です。	○	業務の整理・見直しなど職員全員で話し合い、入居者のペース・希望に添った支援ができるよう工夫されることを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや準備・後片付けなどを入居者も一緒に楽しみながら行っています。また、職員も入居者と一緒のテーブルを囲んで和やかな雰囲気です。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金は女性の日、火・木・土は男性の日と決め入浴されておりますが、外出や畑仕事で汚れた時などは適宜入浴されています。体調不良で入浴したくない時は翌日にしたり、または職員による足浴や清拭なども随時行われています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・洗濯物干し・とりこみ・たたみ・食事の準備・後片付け・掃除・買い物など日々の生活の中で出来そうなことを一緒に行い支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い苑庭で過ごしたり、近くの住宅街を散歩するなど日常的に外出支援が行われています。また、ドライブや行楽地への小旅行なども行われ外食したりと積極的に外出支援に取り組まれています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関にはセンサーを取り付けており、日中はカギをかけていません。帰宅願望の強い入居者もおりますが、職員は行動を把握し対応しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て隣近所にも声をかけ、年2回、夜間想定避難訓練も行っています。職員の連絡網はもちろん、町内連絡網も作成されています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理員により献立作成が行われ、成分表を用いてカロリー計算も行われています。お茶は入居者が好きな時間に摂取できるよう準備されています。また、飲みたがらない入居者には声をかけ、必要量が摂取できるよう支援されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはテーブル・椅子・ソファ・テレビなどが配置され、廊下の随所にも腰掛けが配置され、庭を眺めながら休めるスペースが作られています。二間続きの広い和室ではレクリエーションをしたり、談話したり、寝転んだり自由に利用出来ます。床の間には掛け軸がかけられ、季節の花を生けたり、日本人形をおいたり、ゆったりとした雰囲気を漂わせています。また、トイレや廊下、浴室などには随所に手摺りやスロープが設置され、入居者の身体機能に合わせた支援が行われています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階、2階に配置された部屋はそれぞれ間取りに違いはありますが、一般家庭的な雰囲気の中に、ベット・冷暖房器が設置されており、入居時にテーブルや寝具・座布団・家族の写真などを持ち込み、安心したスペースを作り出しています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。